

心温かい人々が暮らす町

心がモヤモヤ「マイクロアグレッション」

～私もしてしまうかも？ほめたつもりの小さな攻撃～

「お箸の使い方が上手ですね！」「そうですか。ありがとうございます…。」
 友達の紹介で会った外国人との会話のひとつコマです。こちらはほめたつもりですが、相手は微妙に困ったような顔で、あまり嬉しそうではありません。そんな経験はありませんか？



悪気や不快にさせる意図は全くないけれど、何気ない言葉や行動で相手を微妙に傷つけてしまうことを「マイクロアグレッション（小さな攻撃）」といいます。

冒頭の場面、言われた側は「日本に住んで随分長いんだけどなぁ…」と戸惑い、モヤモヤしているのかもしれませんが。この「マイクロアグレッション」は、誰でもしてしまう可能性があります。それは、私たちには子どもの頃から形成されてきた「無意識の思い込みや偏見（アンコンシャス・バイアス）」というものがあからずからあります。

外国の人に「お箸が上手ですね」とほめる心には、「外国の人はお箸を上手く使えない」という、自分でも気づかないうちに根付いてしまった偏りのある感じ方・考え方があるのかもしれませんが。このような思い込みは、誰もが持っているものなので、自然にそれが言葉や行動に出てしまい、「マイクロアグレッション」になってしまう、というわけです。

このような無意識の思い込みや偏見を減らすことにつながるような動きが、近年みられるようになりました。たとえば、多くの人が見るテレビCM（コマーシャル）。1970年代から90年代には、洗剤、掃除機、炊飯器など、家庭用品のCMに登場するのは、ほとんどが女性でした。

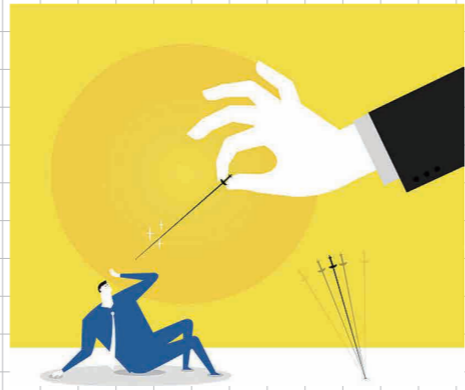
子どもの頃から、そのようなCMを毎日のように見て育った世代には、無意識のうちに「家事は女性の仕事」という思い込みや偏見が育っているのかもしれません。そのことが、「男性なのに家事をするなんて偉いね。」といった、言われた側が戸惑いそうな「ほめ言葉」を生む元になるのです。

では、最近はどうでしょうか。男性が起用された家庭用品のCMをよく見かけられるようになったと思いませんか？これらを見て育つ子どもたちには、「家事は女性がするもの」という意識は育ちにくいかもしれません。

それでは、悪意のないひとことがマイクロアグレッションにならないようにするには、どうしたらいいのでしょうか。まずは「そもそも自分には、多かれ少なかれ、無意識の思い込みや偏見があるのだ」ということを受け止めてみてはどうでしょう。そのうえで「自分はマイクロアグレッションをしてしまう可能性がある」と思っておくのです。そうすると、会話の後に「もしかしら、今のはマイクロアグレッションだったかもしれない。」という気付きにつながり、「次からは気をつけよう」と意識することができます。

「萎縮して何も言えなくなる」と感じるのかもしれませんが。でも、「マイクロアグレッションをしてはいけない」と構える必要はありません。冒頭の場面でもそうですが、同じ言葉でも、その受け止め方は、受け手によって、またお互いの関係性によって、ほめ言葉にも、モヤモヤ言葉にも変わります。

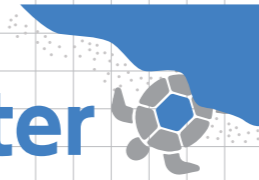
大切なのは、「言うてはいけない」ということだけに捉われず、自身の気づきに向き合い、少しずつ減らしていこうと努めることだと考えます。その積み重ねが、人間関係をスムーズに、そして絆やつながりを強く豊かにしていくことにつながるのではないのでしょうか。相手のことを理解し、お互いの関係性を深めることで、きっと優しく素敵な会話が生み出されることなのでしょう。



町民一人ひとりが相手を思いやり、多様な価値観を認め合う社会をめざしましょう。

「心温かい人々が暮らす、にぎやかな過疎の町」美波町であり続けるために人権について考え守っていくことがまさに、「にぎやかさ」美波町まちづくりにつながります。このコーナーでは人権に対する思いを掲載していきます。

ウミガメ No.22 News Letter



ウミガメのお得意様

今年の大浜海岸でのアカウミガメ上陸産卵頭数は、上陸も産卵も0という結果になってしまいました。これは昭和25（1950）年から記録が残る調査の中で初めての事です。実は、産卵シーズンの早い時期から、他の産卵地との情報交換で、今年のアカウミガメの産卵頭数が例年に比べてかなり少ないという話を聞いていたもので、他の地域と比べて減少が目立つ大浜海岸での上陸産卵が気がかりでした。上陸産卵頭数の減少は大きな問題ですが、大浜海岸の問題は、実は「帰帰率」の低さなのです。つまり、大浜海岸で産卵したウミガメは、その後再び、大浜海岸で産卵することが少ないのです。この事は他の産卵場では見られない状況です。分かりやすく例えると、大浜海岸にはお得意様のウミガメが少ないのです。産卵頭数は砂浜に上陸して産卵するウミガメを数えることで判ります。この時に目印になる標識（タグ）を付けます。こ

のタグには、同じものが無いように番号を付けてありますので、次にこのウミガメが目撃されたときにタグの番号を見れば、このウミガメがいつどこから来たのかが解ります。産卵中にタグを付けたウミガメが、その後、同じ砂浜で産卵したことが確認されると、このウミガメはこの砂浜に「帰帰した」つまり、この砂浜のお得意様ということが解ります。ある店のお得意様はどうしてその店に何度も来てくれるのでしょうか。皆さんもお分かりになると思いますが、「その店の料理、品物、雰囲気が好き」とか、「家の近くで便利だから」などの理由がありそうです。ウミガメにそのような気持ちがあるのかわかりません。しかし、調査活動が産卵を邪魔してしまい、産卵できずに海に帰ってしまったウミガメが、数日後に別の砂浜で産卵したという事は良くある話です。また、安心して産卵することができた経験を積み重ねて、数年後の産卵もこの砂浜で行うという説もあるので、安心して産卵できる砂浜の環境を守って、ウミガメに気に入ってもらい、お得意様になって欲しいというのが、現在、大浜海岸で行われているウミガメ保護対策ですが、今年はその効果を確かめることはできませんでした。一方で、「お客さん（ウミガメ）に、店（砂浜）がここにあることに気づいてもらえない」ということも気になっています。これは次の号でお話しましょう。（館長：平手康市）

うみがめについての質問をお送りください。お答えします！
 〒779-2304 徳島県海部郡美波町日和佐 浦369 うみがめ博物館カレッタ「質問係」



応募フォーム

Question

卵を産むとき、なぜウミガメは泣いているの？

Answer

ウミガメが涙を流すのは、卵を産むときだけでなく、海中にいる時も流しています。この涙は、海の生活で体内に溜まる多すぎる塩分を目の後ろにある「塩類腺」で濃い塩水にして捨てているもので、目から流れるため涙の様に見えるのです。

みなみの海のいきもの図鑑

太平洋に面する美波町では多くの生き物たちが生息しています。このコーナーでは実際に撮影してきたリアルな写真と共にいろんな生き物たちをご紹介します！



似てない親子

右の2枚の写真の魚はそれぞれ何という魚でしょう？
 実はどちらもコロダイです。

上の写真が幼魚、下が成魚です。魚にはこのように幼魚と成魚で色や模様などが全く違うものがたくさんいて、その理由は種類によって様々です。黄色と黒の縞模様をしているコロダイ幼魚の姿はゴンズイに似ていませんか？背ビレと胸ビレに毒を持つゴンズイに似ていることで襲われにくくなるのです。ゴンズイがいる岩陰や砂地にコロダイの幼魚も見られ、しかも体を左右にゆらゆら振りながら泳ぐ姿もゴンズイに似ています。これは生存競争の厳しい海の世界で生き抜く幼魚たちの戦略なのです。（ダイバー：長楽美保）

